

障がいのある人とその家族と共にある体験活動 ～協働による生涯学習の在り方を考える～



霧島おむすび自然学校 壹岐博彦
(宮崎県小林市)

発表内容について

1 協働事業の実践にあたって

- 取組のきっかけ
- 事業に取り組む意義

2 事業の実際

- 民間団体同士の協働～ポン太クラブ
- 民間団体と行政との協働～小林市社会教育課

3 協働事業を通して得られた学び

- 生涯学習の場づくりに必要なこと

事業への取組のきっかけ

ポン太クラブとの場合

- ・ ネットワーク（人のつながり）を活かした取組をしたい（コンソーシアム連携協議会の一員として今後の取組の一つになれば、との思いもある）
- ・ これまでの団体間のつながり、昨年まで取り組んできた事業の流れを継続させたい（障がい者本人や家族の要望を取り入れながら）。
- ・ ポン太の活動の積み重ねの一環でやりたい事業がある。協力し合ってぜひやりたい。

事業への取組のきっかけ

小林市社会教育課との場合

- ・ 個人的なつながりがある者同士、おもしろい、自分たちが楽しいと思えること（事業）をやりたいと以前からよく話をしていた。共生社会を考える中で障がい者に焦点を当てた取組が何かできないか、意見交換することがあった。
- ・ 市民向けの生涯学習講座が、障がい者のニーズや要望（実態を含め）に応えられていないのではないか。この現状を変え、障がい者が参加しやすい事業にできないものか（内容を含め）考えることにした。

協働事業に取り組む意義

- ・ 障がいのある人たちにとって新たな楽しみにつながり、経験の幅が広がる。
- ・ 障がいのある人（家族を含め）との交流が深まり、支援者の輪が広がる。それらをつなぐことで事業を行う上での協力体制が整えられる。
- ・ 協働事業をすすめる中で、お互いに関わり方を含めた運営の仕方について学び合える。

事業の実際 I

民間団体同士による協働事業

- ・ ポン太クラブとのキャンプ活動

団体の紹介

- ・ ポン太クラブ
- ・ 霧島おむすび自然学校

子どもと家族・関係者の集まり **ポン太クラブ**

障がい児(者)さんやご家族（兄弟・姉妹に保護者さん）、ボランティアさんが集まり、学習会や交流会など、さまざまな活動を行っている。

来て、楽しんで、みんなで力を合わせて、それぞれが持つ力をそれぞれの立場で役立ててもらおう。

活動開始は平成18年

子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ



霧島おむすび自然学校の目的は、

- 知的および発達障がいのある人たちの楽しみや趣味につなげること、
- 野外活動を通じた社会参加と自立に役立つこと
- 障がいがあるなしにかかわらず、共に体験を楽しみ学び合うこと

活動開始は平成7年

野外活動 ◎ チャレンジ、シーズンの2つの企画



ポン太の防災プチキャンプ

- ◆期日 令和3年11月27日～28日(日)
- ◆時間 [1日目] 13:50～ [2日目] ～12:00
- ◆場所 都城きりしま支援学校体育館・運動場と周辺
関之尾滝、関之尾甌穴群とその周辺
- ◆内容 <1日目> テント設営(泊) 食事作り&会食
ネイチャーゲーム 歌声ひろば
スターウォッチング
<2日目> 甌穴群・滝巡りほか自然散策

参加者:24名(子ども9、大人10、他ボランティア5含む)

学校施設利用のキャンプ活動（初の試み）

- ・ 夏のキャンプが中止となり、新たに秋キャンプ（11月末）を計画した。
- ・ 寒さ対策と安全確保のため、学校の施設利用を依頼



- ・ 施設開放（体育館及び運動場使用許可）への協力→校長・事務長の理解・協力

1日目

調理活動



テント立て



1日目

夕食(女子会)



歌声ひろば
(みんなで歌おう!)



ネイチャーゲーム



2日目

朝食(非常食)



甌穴群や滝めぐり、自然散策

事業のふいかえい

- ・ 今回のキャンプは概ね、満足したことがわかる感想が多かった（ただし、計画が遅くなり、ご家族には準備等でご迷惑をおかけした）。
- ・ 防災の意識を持たせるねらいについてのふり返りが不十分であったが、寒さや不便さの中でもテント泊、防災食を体験できたことはよかった。
- ・ 支援者という立場でポン太クラブの皆さんと交流できてよかった。個人としても団体としてもつながりを深めるよい機会となった。

今後に向けて

- ・ 今回実施できた原動力は、ポン太クラブ代表の熱意と家族の思い（願い）である。計画する際は複数の候補日を上げ、適宜調整できるようにしたい。
- ・ 雨や寒さの中でもできる屋外の体験や屋内の活動等、幅広いプログラムの必要性をあらためて感じた（コロナ禍での屋内活動は、より慎重さが必要）。
- ・ 事業を通して得られた情報や運営の仕方等は団体間で共有し、新たな体験（事業）に活かしたい。

事業の実際 II

行政と民間団体による協働事業

- ・ 小林市社会教育課の生涯学習講座における実践を見通したウォーキング体験

行政との協働事業のねらい

- ・ 生涯学習講座における協働による事業の可能性について、野外での活動を通して検討する。
- ・ 民間団体や関係機関等との連携のあり方について検討する。

須木を歩こう！“フットパス”を楽しもう！

◆期日 令和3年12月21日（火）

◆時間 12:50～15:00

◆場所 須木下田・中原区内（須木庁舎 発着）

◆内容 須木下田・中原区（3.6km）内ウォーキング

※自然や風景をあいまいながら、町並みや風景、
住民の方々とのふれあいを楽しむ

参加者：16名（当事者5、職員2）ボランティア4、他5

活動のようす



体験内容や参加状況について

- ・ 当日は、思ったほど寒さを感じることなく体験できてよかった。
- ・ 歩いたコース・距離（約3.6km）は、参加者の様子から全体的には無理がなかったように思われる。ただし、補装具を付けて歩かれる方、歩きがおぼつかない方（運動不足もあった）がおられ坂道や後半の歩き等を心配したが、無事に歩き通すことができた。
- ・ 今回行った“フットパス”体験（人と自然とふれあうまちなかウォーキング）は、障がい者（就労支援事業所利用者）や支援者から楽しかったとの感想が多く聞かれ、今後につながるよい感触が得られた。

事業のねらいのふり返り

- ・ 生涯学習講座における協働による事業の可能性について、野外での活動を通して検討する。

- ・ 講座におけるウォーキングへの市民の参加は多い。共生社会の観点からも障がいのある方とのふれあいを楽しめる活動である。運動不足になりやすい障がいのある方にとっては、健康や体力維持のためにもぜひ参加してほしい内容と思われる。

今回参加の事業所職員から、「利用者の方の運動不足や体力の実態がわかってよかった」との感想があり、利用者の方の健康チェック、健康管理の手段にもなっていた。

事業のねらいのふり返い

- ・ 民間団体や関係機関等との連携のあり方について検討する。

- ・ 今回の事業はモニターの要素が大きかったため、事業を動かす主体の確認が必要だったと思う。それがあれば、連絡・調整や進ちよく状況の確認等、必要な動きももっと円滑にできたのではないか。
- ・ アンケートにより、障がい者や支援する職員、同行した関係職員の感想を聞け、検討材料が得られた。
- ・ 今回の事業を通して我々を含め、小林市の社会教育課、福祉課、社会福祉協議会と情報交換できる場が持て、事業のための連携のきっかけができたことは大きな一歩である。今後はそれぞれの役割を確認し機能的に動けるよう工夫していく必要がある。

協働事業を通して得られた学び

障がい者の生涯学習を支援するための
場づくりに必要なこと

さまざまな人との繋がり（ネットワーク）を活かす。

障がい者の困り感やニーズ、保護者の悩みや願いをていねいに汲みとる。（受入側の態度）

企画・運営の当事者同士の思いや願いの共有
→実現に向けた原動力になる。→本気度の確認

協働の相手との情報交換を密にしながら互いに
できることをやる（一方に任せない）。
実施までの準備を分け合う。～しなやかな対応

事業運営の主体を明確にして連絡・確認を細やかに行う（協働の相手が複数の場合は特に）。

ボランティアの確保を行う（養成の機会も必要）。
障がいに応じて対応できる人材確保は、障がい者の体験への参加を促すきっかけにもなる。